

事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	令和7年6月23日～令和8年3月15日
調査研究事項	<p>≪委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究≫</p> <p>I. 教育課程、教育環境整備に関すること</p> <p>②不登校経験者向けの支援の在り方</p> <p>③中学校教育を実施するに必要な、日本語を母語としない方向けの日本語指導の在り方</p>
調査研究のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校をはじめ多様な背景を持つ生徒支援のための相談体制の強化と生徒の自立支援・高校進学のために必要な校内支援体制と関係機関との連携・協力体制の強化を図る。 ・日本語について、様々な課題を持つ生徒一人ひとりの学びの充実と日常生活に必要な生活用語の習得を一体的に図るための効果的な指導方法や体制を検討する。
調査研究の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「自立」を「困っているときに頼る相手を見つけ増やしていくこと」とし、困り感を持つ生徒を地域社会とつなげるために NPO 団体や行政機関との連携を図り、生徒の「自立」を支援した。 ・不登校支援として、校内の相談体制を強化するために、研修を実施させたり教員が相談できる関係機関を増やしたりするとともに、引き続き SC や SSW 等の連携を図り、生徒個別の課題に対応するための相談機関との連携を充実させた。 ・昨年度に引き続き、地域の日本語教室と連携し、日本語指導の研修を実施し教員のスキル向上につなげた。また、学習支援の面で、大学生等のボランティアを継続して募集・活用し、生徒の学習指導（主に日本語指導）及び生活支援体制の整備を図った。 ・先進校への視察を通じて、夜間学級教員の学習指導（主に日本語指導）及び生活相談・進路相談や自立支援についての教員の技術力向上を図るとともに、先進校の生徒支援に係る学校運営体制を学ぶことで、自校の学級運営体制の充実を目指した。 ・教員と生徒とのコミュニケーションを密にすることで生徒個々の傾向やニーズについて密に把握し、これまで使用してきた教材に加え、新しい教材を積極的に研究、実践した。また、外国籍生徒向けの高校進学用の教材開発に努めた。 ・校内に在籍する不登校生徒の実態に即して、研究資料や購入する関連書籍等の内容についての研究を深め、学校として必要な資料及び書籍等の資料の充実に努めた。 <p>【4月・5月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の調査研究の成果と課題を全教職員で共有した。昨年度に成果・効果の見られた取組を整理し、生徒の課題を解消するための手立てを教員全体で協議し、実施していく学級運営計画案を立てた。 ・学校運営協議会において、本事業の内容について承認を得た。夜

間学級の現状や本事業の計画内容（不登校経験者支援・日本語指導体制の整備・地域との連携等）について報告し、承認を得た。

- ・個々の生徒についての情報（国籍、年齢、背景や置かれている状況、生活面や心情面での不安や困り感等）を教職員全体で共有した。
- ・個々の生徒の現状やニーズ【学習指導（主に日本語指導における課題のフェーズの認識）や進路指導（主に高等学校への進学へのニーズの把握）や生徒支援（主に不登校経験者の登校への不安等）について教職員全体で生徒理解の会議を行った。
- ・大学生等のボランティアの募集方法や周知方法と学校における有効な活用方法を検討した。
- ・地域日本語教室と連携し、本年度の連携体制を協議するとともに、生徒や教員のニーズに応じた研修計画を立案した。
- ・現在使用している日本語に関する教材について専門家に意見を求め、在籍している生徒の実態に合った教材の研究、開発に努めた。

【6月】

- ・大学生等のボランティアを活用した支援を始めた。
- ・校内研修（日本語指導①）
本年度は、「生活日本語の教え方について①」をテーマに校内研修を行い指導方法の改善を図った。昨年度に引き続き、地域日本語教室の講師を招いて、日本語指導内容の検討を行った。外国籍生徒の入学後、個々の学習や生活支援のニーズを把握するために、生徒が日常生活や学校生活での生活日本語を身につけることが必要と考え、教員が生活日本語を指導する方法について研修を実施し、日本語指導の授業実践に活かすこととした。「やさしい日本語」は、日本語を母語としない生徒のみならず、多様な年齢層が在籍する夜間学級において情報保障の観点からも有効であることから、今後の指導における共通の手法として位置づけた。

【7月】

- ・校内研修（不登校支援）
昨年度に引き続き「自立」をテーマに『困り感を持つ生徒を社会とつなげる』ために、不登校経験のある形式卒業生や高校進学への支援の具体的な事例や対応方法についてNPO 団体から講師を招き、研修を行った。地域・社会と生徒をつなげる支援方法、また生徒自身が地域社会や関係機関に助けを求める力を身につけていくための支援方法を協議し、校内の生徒支援の実践に生かした。
- ・校内研修（日本語指導②）
「生活日本語の教え方について②」をテーマに校内研修を行い、指導方法の改善を図った。生活日本語の習得に向けた指導技術として、オーディオリンガルメソッドおよびコミュニティアプローチを用いた学習活動に関し、視覚資料や動画による解説がなされた。各教授法の特性や相違点を整理したことで、生徒のニーズや学習状況に応じた指導を構成するための専門的知見を深める

ことができた。また、研修後の協議会にて個別の課題に対する指導助言を受け授業の改善につなげた。

【8月】

- ・先進校視察（守口市立さつき学園夜間学級）
先進校の取組を教員が視察することで、不登校経験者向けの支援の方法や中学校教育を実施するために必要な日本語指導の指導方法について学び、生徒支援や指導力のスキルアップにつなげた。また、生徒支援に係る先進校の学級の運営体制について、より良い方法を発見する機会とし、自校の運営体制の見直しと整備を図った。

【9月】

- ・地域日本語教室との連携体制の強化を図った。
在籍する生徒の学習状況やニーズ等を共有し、研修計画の調整を図った。また、教員の指導における困り感を共有した。指導助言を受け、教職員の指導力向上や教材開発の充実につなげた。また、日本語学習をする生徒の目標（読み書き、話す、自己表現、やりとりなど）を意識して、教材の工夫を行った。
- ・研究授業「日本語指導力の向上」
教員の日本語指導力の向上を目的とし、研究授業を実施した。市内の学校で活動する日本語指導員や日本語指導コーディネーターを招き、授業を実際に視察してもらうことで、必要な指導・助言を受けた。研究授業や協議から得られたことをその後の日本語指導の授業実践に生かした。授業では、ただ日本語を教えるだけでなく、生徒の特性やニーズに応じた授業を展開して、これから生徒にどう向き合っていけばよいのかという一つの指針となった。

【10月】

- ・漢字検定
昨年度に引き続き、夜間学級が窓口となり、漢字検定を実施することで、春日中学校区の児童生徒、保護者、地域の方々との地域連携、交流の機会とした。
- ・昼間学級との交流
春日中学校区地域教育協議会主催の「ふれあい文化祭」における人権作文発表会を通じて、昼間学級在籍の生徒と夜間学級在籍の交流を図り、地域とのつながりをはぐくむ機会となった。
- ・校内研修（日本語指導③）
「学習日本語の教え方について①」をテーマに校内研修を行い指導方法の改善を図った。母語を介さない直接法および母語を使って説明する間接法の特性と留意点についての研修を実施し、指導技術の習熟を図った。授業導入における両手法を適切に組み合わせた具体的な指導手順の確認や、映像教材の活用方法に関する内容から、日本語指導の在り方を学んだ。

【11月】

- ・校内研修（日本語指導④）
「学習日本語の教え方について②」をテーマに校内研修を行い指導方法の改善を図った。コミュニケーション能力の向上をねらいとした授業活動を具体例に、Can-do リストに基づいた指導法およ

び教材活用の提示を受け、発話の必要性が高い生徒を対象とした同手法の有効性について理解を深めた。「読む・書く・聞く・話す」の4技能を均衡に扱いつつ、生徒の学習目標やニーズ、特性に応じた指導を行うための工夫について学ぶことができた。研修後には振り返りを行い、講師と共有して授業の改善につなげた。

【12月】

- ・2025年度第71回全国夜間中学校研究大会・東大阪大会に2日間参加した。本研修の受講を通じて、戦後における夜間中学校の歴史の変遷と果たしてきた役割への理解を深化させた。これにより、事業紹介や対外的な普及啓発に際し、設立の背景や社会的意義を踏まえた多角的かつ説得力のある説明を行うことが可能となった。また、不登校経験を有する「形式卒業者」への支援において、個々の背景を多角的に分析し、本人との対話を主軸に置く指導体制についての知見を得た。さらに、日本語指導において、生徒の学習上の困り感を組織的に共有・把握することで、機動的に指導支援を改善していく手法の実際について学ぶことができた。

【1月】

- ・漢字検定
10月に引き続き、夜間学級が窓口となり、漢字検定を実施したことで、春日中学校区の児童生徒、保護者、地域の方々との地域連携、交流の機会とした。
- ・学校評価アンケートの実施
生徒や教職員から本年度の取組についてアンケートを取り、調査研究の総括材料とした。

【2月】

- ・総括会議
今年度の調査研究内容について、得られた成果と課題を協議し総括したことで今後の取組方針等について協議できた。
また、学校評価アンケートの結果を受けて、次年度の学級運営の方向性や重点課題、研究の内容と充実を図る方策について検討した。
- ・文集作成
1年間の学習成果を集約した文集を刊行し、関係諸機関および諸団体へ配付・周知を図った。これにより、自校の教育実践に対する理解を深めるとともに、外部機関との新たな接点を創出し、教育活動を支援する協力体制の拡充および新規ネットワークの開拓を実現した。

【通年】

- ・情報発信
自校の取組や成果について、自校のホームページで適宜発信し、夜間学級の教育内容や実践を広報した。また、地域教育協議会や商業施設へのチラシ配付を通じ、夜間学級の取組について積極的な周知を実施した。